

編集後記

本号の総説は、橋口緯徳教授に書いて頂いた「歯科審美における色彩科学の進歩」と題する32頁に及ぶ論文で、この分野に関心をお持ちの会員の方には大いに参考になるのではないかと思います。また、歯科補綴学第一講座から「審美性の改善を主目的とした唇顎口蓋破裂患者の補綴処理2例」と題する歯科審美をテーマとした論文が投稿され掲載されています。西欧では、「歯の美しさ」は、健康美の一要素として重視されるのみでなく、文明社会におけるステイタスの尺度としても重視されているやに聞き及んでいます。日本においても「審美性を重視した歯科診療」は、これからますます盛んになって行くのではないかと考えられます。

編集子が編集主任をお引き受けしてから5年以上が経過し、その間に20号近くの「松本歯学」が発行されましたが、投稿された論文をその都度全部掲載するだけで、どの号もほぼ同一の頁数になるので、大変有難いと思うと同時に、どうして何時もほぼ同一の頁数になるのか不思議に感じています。沢山の論文が一時に投稿されたり、あるいは、掲載原稿が足りなくて困るようなことがあっても良いように思うのですが、単なる偶然の連続なのか、それとも必然的な理由があるのか一寸分りかねますが、出来れば後者であって、これからもこの状態が続いて、毎号ほぼ一定数の原稿が投稿されて欲しいものだと考えています。勿論、今後研究が盛んになって行って、一定のペースで頁数が増えて行くことにはやぶさかではありません。

本号の論文の英文抄録は、Carlson 先生が長い間出張されていたので、Waits 先生に添削して頂きました。今回は止むをえない事情でこのような処理を取らせて頂きましたが、今後も Carlson 先生がお忙しい時は Waits 先生に添削して頂こうかと考えています。

(野村 浩道)

松 本 歯 学 第17巻 第2号 (非売品)

1991年 8 月25日 印刷 1991年 8 月31日 発行

編集兼発行者 小 林 茂 夫

発 行 所 松本歯科大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 0263-52-3100

印 刷 所 電算印刷株式会社

390 松本市筑摩3270 電話 0263-25-4329